

平成28年6月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年6月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

7月1日から9月30日にかけて、青森県や道南各地への集中的な誘客や地域経済の活性化を図る「青森県・函館ズナイネーションキャンペーン」が実施されます。昨年11月に焼失した蕪嶋神社再建を願う「蕪島応援号」も運行されるなどイベント列車も増発されますので、この機会に、是非、八戸までお越しください。

◎八戸特派大使の方々へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市広報統計課または八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 6月号 レポート

平成28年5月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	屋内スケート場 2020年の国際大会誘致へ
2	青森県出生数8621人で過去最少
3	八戸ブックセンターに「三浦哲郎部屋」愛用の文机レプリカ設置

【産業】

No.	項目
4	ユニバー스가ネットスーパー開始へ
5	スーパーホテル八戸が高評価 楽天トラベルで全国5位
6	7～9月「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」開催
7	世界最大級の日本酒品評会 八戸酒造「陸奥八仙 大吟醸」が最高賞
8	～八戸の水産品をロスに売り込め～ 10月に現地でプロモーション

【地域】

No.	項目
9	米に漂着した「奇跡の鳥居」5年ぶりに再建
10	八戸市中心街の複合ビル「ガーデンテラス」整備進む
11	種差海岸ガイド事業開始 ～種差海岸をガイドさんと歩こう！～
12	鯨地区でウニ漁解禁
13	みちのく銀行 全店舗に認知症サポーターを配置
14	「毘沙門のイチョウ」樹勢回復へ治療開始
15	田面木地区の学校周辺にクマ出没
16	食べやすいつるこまんじゅう「たまつる」新発売

【文化・スポーツ】

No.	項目
17	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 来館者15万人突破！
18	八戸発の“和のオペラ”「絵姿女房」17年ぶりに東京で再演
19	生誕100年を記念「風の軌跡 村次郎の生涯」を発行
20	第35回うみねこラジソン開催 過去最多6460人がエントリー
21	南郷ジャズフェスティバル リチャード・ボナさん迎え7月開催
22	宝塚・星組トップスター北翔海莉さん 八戸特派大使に委嘱
23	『白銀四頭権現神楽』八戸市無形民俗文化財に指定
24	トランプター・日野皓正さんと八戸北高生が交流
25	高橋みのるさん作のからくり時計「八戸」都内のデイズニー映画記念展に出品

【行政】

記事	概要
	<p>屋内スケート場 2020年の国際大会誘致へ</p> <p>八戸市が2019年秋の完成を目指す屋内スケート場に関し、小林眞市長は5月17日、日本スケート連盟の橋本聖子会長に、2020年2月ごろの国際大会を誘致したい意向を伝えた。屋内スケート場は同市長根公園内に建設予定で、今秋にも本格着工する。橋本会長は「良い施設が整う準備が進んでいると感じた」と評価した上で、「新たなスポーツビジネス産業も創出されるような施設にしてほしい」と注文。実現に前向きな姿勢を示した。</p>
	<p>青森県出生数8621人で過去最少</p> <p>青森県の2015年の出生数は8621人で、統計がある1950年以降、過去最少を更新した。人口は1999年から17年連続で死亡数が出生数を上回る「自然減」となり、減少幅は過去最大。県健康福祉部長は「人口の『自然減』は全国的な現象」とした上で「歯止めをかけるためには、がん対策と、子どもを産み育てやすい環境づくりが重要」と強調している。</p>
	<p>八戸ブックセンターに「三浦哲郎部屋」愛用の文机リプリカ設置</p> <p>八戸市は、今秋開設予定の八戸ブックセンターの目玉として、同市出身の芥川賞作家三浦哲郎氏（1931～2010）が愛用した文机の複製品を設置する方針を明らかにした。約3平方メートルの置コーナー「三浦哲郎部屋」内に設け、来館者に開放する。リプリカの複製は、実物の製作を請け負った同市の七尾家具百貨店に、約30万円で委託。実物と同じニレ材を使用し、忠実に再現するという。市の担当者は「偉大な先人を身近に感じ、本に親しんでほしい」と語っている。</p>

【産業】

記事	概要
	<p>ユニバー스가ネットスーパー開始へ</p> <p>北東北でスーパーを展開するユニバースは今夏、小中野店を拠点にネットスーパー事業をスタートさせる。インターネットで注文を受け付け、同店の周辺地区を対象に商品を配達する。当面の配送エリアは小中野や江陽、新井田、沼館などの15地区で、7月からサービスを開始する予定。同店でビジネスモデルを構築し、配達エリアの拡大や他店舗での導入も進める方針である。</p>
	<p>スーパーホテル八戸が高評価 楽天トラベルで全国5位</p> <p>宿泊予約サイト「楽天トラベル」が過去1年間で評価が高かったビジネスホテル上位10施設を発表、青森県から唯一、5位に「スーパーホテル八戸天然温泉」が選ばれた。同社の担当者によると、「天然温泉に入れたのがよかった」「スタッフの対応が良かった」「朝食でせんべい汁が食べられた」のコメントが多く寄せられたという。同ホテルは2008年5月に開業。八戸市尻内町の熊沢温泉から週3回、トラックで温泉を運び、1階の「三社の湯」で提供している。ビジネス客だけでなく、家族連れやシニア層の利用も好調だという。</p>
	<p>7～9月「青森県・函館ズナイネーションキャンペーン」開催</p>
	<p>北海道新幹線開業を機に「Rと青森県などが7～9月に大型観光企画「青森県・函館ズナイネーションキャンペーン（DC）」を開催する。テーマは「ひと旅ふた旅、めぐる旅」。道南との共催は初めて。昨年11月に焼失した蕪嶋神社再建を願う「蕪島応援号」を7月17日に運行するほか、9月には「R奥羽線でSL列車を走らせるなど、イベント列車を増発する。期間中は青函地域を巡る旅行商品を販売するほか、特産品などが当たるスタンプラリーを実施する。</p>

	<p>世界最大級の日本酒品評会 八戸酒造「陸奥八仙 大吟醸」が最高賞</p> <p>神戸市で開催されていた世界最大級のワイン品評会「インターナショナル・ワイン・チャレンジ (IWC) 」の日本酒部門で、純米大吟醸酒など9種類で最高賞「トロフィー」が決まった。青森県からは大吟醸酒部門で八戸酒造の「陸奥八仙大吟醸」がトロフィーに選ばれたほか、本醸造酒部門で桃川 (おいらせ町) の「桃川 特別本醸造」が金賞を受けた。日本酒部門は2007年創設で、例年ロンドンで審査会を開催。日本開催は2012年以來2度目。トロフィーの9銘柄から「チャンピオンSAKE」の1銘柄を決め、7月にロンドンで発表される。</p>
	<p>～八戸の水産品をロスに売り込め～ 10月に現地でプロモーション</p>
<p>(7)</p>	<p>八戸市は今年10月、米国ロサンゼルス市で、八戸の食材や特産品を売り込むプロモーション活動を展開する。10月7～9日にロサンゼルスで開かれる青森フェアには昨年に続いて参加し、日系の会員制スーパーで小林眞市長がトップセールスを行う予定。また、フェアに先立ち、在ロサンゼルス日本国領事館公邸でプロモーションを実施する。現地の関係機関を招待し、公邸シェフによる八戸の食材を使った料理の提供や調理方法を周知し、水産品を使った料理をPRするなどして新たな商流を形成し、ロサンゼルスを中心とした米国の販路拡大につなげたい考え。</p>
<p>(8)</p>	

【地域】

記事	概要
<p>(9)</p>	<p>米に漂着した「奇跡の鳥居」 5年ぶりに再建</p> <p>東日本大震災の津波で損壊、一部が米国オレゴン州に流れ着いた大久喜漁港内蔵島神社の鳥居が、5年ぶりに再建された。鳥居は地元住民が大漁や家内安全を願い奉納したもので、2011年の震災で流され、2年後の2013年春に最上部の笠木2つが米国に漂着した。現地の「ポートランド日本庭園」の尽力で2015年秋に返還され、地元で修復作業を進めていた。7千キロを“航海”し、多くの人の温かいひびによって古里の地で復活した。</p>
<p>(10)</p>	<p>八戸市中心街の複合ビル「ガーデンテラス」整備進む</p> <p>八戸市の冠婚葬祭業「江陽閣」が六日町に整備する複合ビル「ガーデンテラス」は、昨年度本体工事が終了し、7月末のオープンを目指し内装工事が本格化している。三日町のにぎわい広場「ラチニコ」や六日町と三日町の境界の路地「花小路」と一体となり、華やかな明るい雰囲気となるよう、れんがの赤色を基調としたインパクトのあるデザイン。地上4階建てで、1階は市が開設する八戸ブックセンター、生花店、大手コーヒーチェーン店などの入居、2、3階はオフィスフロアとし、ファミリーセンターが入る予定。4階は、一部に屋根をつけず屋上テラスとして開放し、カツラなどの木や植物を植え、自然を感じながらのんびりと休める空間にする。テナントは7月から順次、オープンする予定。</p>
<p>(11)</p>	<p>種差海岸ガイド事業開始 ～種差海岸をガイドさんと歩こう！～</p> <p>八戸市は5月から、事前申し込み不要で、気軽に参加できる種差海岸周辺のガイド事業を始めた。コースは実施日で異なり、観光客が1～2時間の短時間で歩けるよう、葦毛崎展望台、大須賀海岸など、見どころをピックアップした7コースを設定した。ガイド事業は9月まで毎週土曜日に行う。利用者は午前10時半に種差海岸インフォメーションセンターで申し込み。先着10人、利用料500円 (保険料込み) 。</p>

鮫地区でウニ漁解禁

- (12) 八戸市鮫地区で、5月15日に解禁となったウニ漁が始まり、八戸鮫浦漁協の組合員たちが連日、出荷作業に精を出している。組合員たちは、蕪島から種差海岸の葦毛崎展望台までの沿岸部の漁場で、潜水や、ゴツゴを餌にウニをおびき寄せる「カゼツミ」で漁獲する。組合員の一人、馬渡淳一さんは、素潜りで約20キロのバツウニを漁獲。解禁以降、波やうねりの影響で思うように漁獲できていないが、今年のウニの実入りはまずまずという。馬渡さんは「鮫のウニは濃厚でコクがあるのが自慢。たくさんの人に食べてほしい」と話している。

みちのく銀行 全店舗に認知症サポーターを配置

- (13) みちのく銀行は高齢化社会の進展を踏まえ、全営業店98店舗に「認知症サポーター」を配置した。同サポーターは、自治体から派遣される「認知症サポーターキャラバンメイト」による講習を受け認定される。同行は、青森市が派遣した認知症サポーターキャラバンメイトを講師に迎え、窓口サービスを担当する行員98人に対し養成講座を実施。認知症の基礎知識や、症状がある人への接し方などを学んだ。各店の入口には、同サポーターの配置を知らせるステッカーを張るほか、サポーターは、バツジを着け窓口で対応している。

「毘沙門のイチョウ」 樹勢回復へ治療開始

- (14) 八戸市立市民病院裏に立ち、衰弱が進む通称「毘沙門のイチョウ」の治療が5月23日に始まった。樹齢550年と推定されるこのイチョウは2006年に田向地区の区画整理により、元の場所から135メートルほど移動したことで衰弱が進んだ。この日は樹木医ら約10人が根元の土を掘り返し、栄養のある土に入れ替える土壌改良を行った。24日以降は有機質肥料などを含んだ土まんじゅうを木の幹や枝に貼り付けたり、発根剤と酸素を多く含んだ水を根元にまいたりする。樹木医は「何としても助けたい」と話している。

田面木地区の学校周辺にクマ出没

- (15) 八戸市田面木地区で5月26日、クマによる食害が発生したほか、夜にはクマが自撃された。午前8時ごろ、田面木上野平の養蜂場で養蜂箱2箱が壊されているのが発見され、被害を受けた箱には、クマのものとみられる爪痕が残っていた。さらに午後7時ごろには、同地区にある八戸聖ウルスラ学院のバス運転手が、高校駐車場付近の雑木林でクマを目撃した。現場はいずれも民家や学校に近く、緊急に児童を集団下校させるなどの対策を講じた。市や八戸署は、地区内のパトロールやわなを仕掛けるなどして警戒を強めるとともに、学校や住民に注意を呼び掛けている。

食バやすい つるこまんじゅう「たまつる」新発売

- (16) 菓子製造・販売などを手掛ける「丸美屋」は、同社の「つるこまんじゅう」をより食バやすくした新商品「たまつる」を開発した。つるこまんじゅうは落雁粉が付いているが、市内の茶道関係者から「お茶席に合うように工夫はできないか」との依頼を受け、木型に入れてまんじゅうとともに押し固め、粉がこぼれ落ちにくくした。大きさは小さめの卵形で、表面にツルのくちばしをイメージした一筋の焼き印を押しした。価格は1個160円、5個入り800円（いずれも税込み）。

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 来館者15万人突破！

(17) 縄文文化の発信を狙いに、2011年7月10日にオープンした八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館で5月2日、来館者数が15万人を突破した。15万人目となったのは、父親の出身地である同市を訪れた東京都葛飾区の根岸來夢君(10)。記念セレモニーで、古館館長からハチカチなどのグッズが贈られた。根岸君は突然の祝福に驚きつつ、記念グッズに笑顔。館内を回り、いろいろな化石や遺跡から昔の人の苦勞を知ることができて楽しかったと感想を語った。縄文館は近年、土器づくりなどの体験型イベントに力を入れており、今年の来場者数も昨年の2割増しになっている。

八戸発の“和のオペラ”「絵姿女房」17年ぶりに東京で再演

(18) 八戸発のオペラ「絵姿女房」が5月2日、江東区の深川江戸資料館小劇場で1999年以来、17年ぶりに上演された。同作品は1982年に八戸市民創作オペラ協会が初めて上演。親しみやすい物語と音楽で市民の評判を呼んだ。今回、八戸市出身の東京芸大大学院2年のソプラノ内田智子さんが再演を企画、同市の熊谷拓治さんが脚本を、内田さんの父・勝彦さんが作曲を担当した。80年代に父の世代が作り上げた“和のオペラ”が、内田さんら若い世代の出演者13人によってよみがえり、観客約270人を魅了した。

生誕100年を記念「風の軌跡 村次郎の生涯」を発行

(19) 八戸市出身の詩人村次郎(1916～97年、本名・石田實)が生まれて5月4日ちょうど100年。同市の有志でつくる「村次郎の会」は生誕日に合わせ、村自身による未発表作品の後記と年譜を収録した「風の軌跡 村次郎の生涯」を発行した。青森県内外の多くの人から慕われた村。節目を機に、今まで知られてこなかった人情味ある素顔を伝え、畏敬の存在ではない“人間・村次郎”の親しみあるイメージを広めていきたい考えである。

第35回うみねこクラウン開催 過去最多6460人がエントリー

(20) 第35回八戸うみねこクラウン全国大会が5月8日、八戸水産公社を発着点に開かれた。日本陸連公認のハーフト10キロを含む4距離を年齢、性別などで区分した計18種目に、全国27都道府県から過去最多の6460人がエントリー。この日の八戸市は、レース開始時の午前9時の気温が17.3度。時折強い風が吹いたものの、三陸復興国立公園に指定されている種差海岸沿いを走るハーフトでは、1729人が心地よい潮風を受けながら、爽やかに駆け抜けた。

南郷ジャズフェスティバル リチャード・ボナさん迎え7月開催

(21) 「第27回南郷サマージャズフェスティバル」の日程と出演者が発表になった。今年(7月30日)に南郷の「カッコーの森エコーランド」野外ステージで開催。米国のジャズ界を代表するペーシスト、リチャード・ボナさんから5組が熱いステージを繰り広げる。また2015年に3年ぶりに現役復帰したピアノの大西順子さんや、世界的ジャズストランペッター・日野皓正さんもステージを飾る。フェスは午後1時開演。一般5千円、中高生2千円、小学生以下無料。

宝塚・星組トップスター北翔海莉さん 八戸特派大使に委嘱

(22) 八戸市は5月18日、宝塚歌劇団・星組トップスターの北翔海莉さん(八戸市生まれ)を八戸特派大使に委嘱した。北翔さんは1998年に宝塚歌劇団に入団。2015年5月、特定の組に所属しない優秀な団員が集まる「専科」から、星組トップに就任した。11月に行われる公演終了後、退団する。都内で同日、小林眞市長から委嘱状を受けた北翔さんは「ふるさとに恩返しができるうれしい。八戸のために力になれたら」と語り、併せて、東日本大震災からの復興や燕嶋神社の早期再建に期待を寄せた。

『白銀四頭権現神楽』 八戸市無形民俗文化財に指定

(23) 八戸市教委は5月23日、約260年の伝統を誇る「白銀四頭権現神楽（しろがねしとうごんげんかぐら）」を市無形民俗文化財に指定すると発表した。この神楽は、山中で修行する修験者が伝えた山伏神楽の流れをくむ。獅子舞だけでなく、獅子頭を使わない演劇的な演目を有するのが特徴。演目数は18に上り、男性が女性に扮して踊る「機織り」や、えびす舞に似た「浦島太郎」は白銀だけに残る。市文化財の指定は2008年に有形文化財となった大黒天像以来で、72件目。

トランペット-日野皓正さんと八戸北高生が交流

(24) 日本を代表するジャズトランペッター-日野皓正さんのクインテット八戸公演が5月24日、「はっち」で開かれた。同日、公開リハーサルが行われ、日野さんと八戸北高吹奏学部員が交流。音程や音量の調節、リズム合わせなどの様子を見学した後、出演メンバーと一緒に「テキーラ」など3曲を演奏。生徒はフロアのテクニクを間近に感じながら交流を楽しんだ。公開リハーサルは、若手音楽家の育成と地元の音楽振興を目的に企画。この日は、同部員62人が楽器を持ち込んで参加した。

高橋みのるさん作のからくり時計「八戸」 都内のディズニー映画記念展に出品

(25) 八戸市のからくり作家・高橋みのるさんが制作したからくり時計「八戸」が、ディズニー映画の公開に合わせて、都内（汐留・日本テレビ2階日テレホール）で開かれる「アリスと時間のアート展」（6月4～12日）で展示される。アート展は、7月1日から全国で公開される映画「アリス・イン・ワンダーランド」時間の旅にちなんだもの。「八戸」は2014年に高橋さんが創ったもので、イカや八幡馬、せんべいなどをモチーフにした八つの人形が、曲とともに動く仕組みとなっている。